

Rd3. AUTOPOLIS

<<JSB1000>>

清成選手が開幕戦に続き 2 位表彰台獲得！

第 2 戦が大型台風の接近に伴い中止となったため、開幕から約 1 ヶ月のインターバルを置いて開催となったオートポリスでの第 3 戦。

今シーズンは度重なるレース日程の変更があった影響でオートポリスでの事前テストは行われず、今シーズン発足した Keihin Honda Dream SI Racing にとって初めてのオートポリスでの戦いが始まった。

●9月19日(土)

予選 Result 天候：晴れ | 気温：22℃ | 路面状態：ドライ

◆清成龍一 選手 R1 4 位 / R2 4 位

◆渡辺一馬 選手 R1 7 位 / R2 7 位

11 時 55 分、さわやかな秋空のもと、JSB1000 クラスの公式予選が開始された。

前日に予定されていた練習走行が濃霧のため全セッションキャンセルとなってしまい、予選日午前の特別スポーツ走行でマシンセッティングを出さなければならないという難しい状況で行われた。清成選手はベストタイム 1'48.590、セカンドタイム 1'48.966 を記録してレース 1、2 とともに 4 番手、渡辺選手はベストタイム 1'49.527、セカンドタイム 1'49.636 でレース 1、2 とともに 7 番手スタートとなった。

決勝レース 1 Result 周回数：12 | 天候：曇り | 気温：19℃ | 路面状態：ドライ

◆清成龍一 選手 4 位

◆渡辺一馬 選手 5 位

予選に続き、薄雲が日差しをさえぎり曇り空となった 16 時 5 分、ドライコンディションのなか決勝レース 1 がスタートした。

4 番グリッドからみごとなスタートを決めた清成選手がホールショットを奪い、そこに中須賀選手、野左根選手 (YAMAHA FACTORY RACING TEAM)、水野選手 (MuSASHi RT HARC-PRO.HONDA) が続く。清成選手はオープニングラップを制すが、3 周目に野左根選手に抜かれ 2 位、4 周目には中須賀選手に抜かれてしまい 3 位になってしまう。7 番グリッドから 5 位に浮上した渡辺選手は単独でトップ争いを追いかける。清成選手は 10 周目の 1 コーナーで水野選手に抜かれ 4 位になるが、前に食らいつきチャンスをうかがいながら走行を続ける。ところがレース終盤、トップ集団が 14 周目に突入した直後に後方で多重クラッシュが発生、赤旗が掲示される。規程周回数に達していたため、そのままレースは終了となり、12 周目の通過順位で清成選手 4 位、渡辺選手 5 位という結果となった。

●9月20日(日)

決勝レース 2 Result 周回数：18 | 天候：晴れ | 気温：23℃ | 路面状態：ドライ

◆清成龍一 選手 2 位

◆渡辺一馬 選手 4 位

前日に続きオートポリスは清々しい秋晴れとなり、15 時 20 分に決勝レース 2 がスタートした。

前日のレース 1 同様に清成選手が 4 番グリッドからスタートダッシュを決めてホールショットを奪い、それに野左根選手、中須賀選手が続きトップ集団を形成、4 位以下を引き離す。2 台の YAMAHA が順位を入れ替えながら清成選手に迫り僅差の接近戦が続くが、清成選手はトップを死守する。しかし 11 周目、野左根選手、中須賀

選手にかわされ清成選手が3位となってしまいます。そのまま激しいトップ争いを繰り広げる2台を清成選手が追いかける。その後方では渡辺選手が濱原選手(Honda Dream RT 桜井ホンダ)をとらえて5位に浮上する。トップ集団は接近戦のまま最終ラップへ突入。そして迎えた最終コーナー、コーナーの進入でトップを走る中須賀選手のインに野左根選手が飛び込み接触、中須賀選手が転倒リタイヤとなり、3位走行中だった清成選手が2位、渡辺選手が4位でチェッカーを受けた。

●Comments

◆伊藤真一 監督

新型マシンで試したいこと、確認したいことが多いなかで、事前テストもなく、金曜日のフリー走行も濃霧で走れないという状況でしたが、レース1では清成選手が素晴らしいスタートで、レース序盤をリードしました。最終的にはファイナルのセットが合わずに我慢の走りとなりましたが、確実にライバルが見える位置で走り抜いてくれました。渡辺選手は追い上げのレースになり、本来の力を発揮できるように、さらにサポートしていきます。レース2での清成選手はスタートから10周までトップに立ち、レースを引っ張ってくれました。マシンがまだ仕上がっていない状況を考えると、ライダーの能力に負うところが大きいと感じています。渡辺選手はセッティングに悩みすぎ、本番は外してしまったので、そこを見極めることが必要だと思います。

新型マシンのデビューシーズンで、まだまだ多くの課題がありますが、しっかりと課題の解決に取り組み、トップ争いを観ていただけるようにしたいと思います。

◆清成龍一 選手

予選でも決勝でもホンダ勢ではトップにいないかならなと思っていますので、予選順位もレース1の順位も納得はできていませんが、これを真摯に受け止めて前進しなければと思っています。

レース2は転倒者があつての2位なので複雑な思いはありますが、開幕戦SUGOに続いて表彰台に上がったことを嬉しく思います。ここにたどり着けているのはバイクのフィーリングが向上しているからです。

チーム一丸となって新型マシンのポテンシャルをさらに引き出し、今度は自力で表彰台に立てるように頑張ります。

◆渡辺一馬 選手

フリー走行、予選と大きくセットを変えて仕様を試していたこともあり、予選最後の10分をまとめ上げられずに順位を上げることができませんでした。その結果、追い上げのレースになってしまいました。

レース1では5番手に上がった時点でトップ争いから大きく離れ、追いつくことができませんでした。それでも、1レース走り切ったことで得たものも大きく、その反省を生かしたセットでレース2を戦いました。

決勝レース2に向けて、チームと相談しながらセットを変更しましたが、思ったような結果を得ることができませんでした。

オートポリスは他のライダーにくらべて走行経験が多い分、タイムアップのポイントを理解していると思っていたので、そこに合わせようとし過ぎたのかもしれませんが、トップとの差を詰めようとトライしましたが、うまくいきませんでした。

今回は集団をうまく抜けることができず、結果につながられずに申し訳なく思っています。今回の経験を次に生かせるように、状況が揃わないなかでもライダーとしてできることをしっかり考えて行動していきたいと思ひます。

<<ST1000>>

終盤追い上げるもあと一步届かず

前戦 SUGO では最速ラップを記録しながらも惜しくもリタイアとなった作本輝介選手。第3戦の舞台オートポリスは鹿児島出身の作本選手にとって地元ということで、一層気合いを入れてレースにのぞんだ。

●9月19日(土)

予選 Result 天候：晴れ | 気温：19°C | 路面状態：ドライ

◆作本輝介 選手 11位

14時15分、30分間の公式予選が開始された。

今回のオートポリスは事前テストは実施されず、前日の練習走行も濃霧のため中止となり、マシンのセッティングを予選当日に進めなければならない状況となった。

作本選手は午前中のフリー走行で履いたタイヤのフィーリングが良くなかったため、予選では別のタイヤ、セッティングで予選にのぞんだ。しかしこの判断が裏目に出てしまい、トップと約1.8秒差の1'52.725。翌日の決勝を11番手からスタートすることとなった。

●9月20日(日)

決勝 Result 周回数：14 | 天候：晴れ | 気温：20°C | 路面状態：ドライ

◆作本輝介 選手 4位

予選に引き続き秋の陽気となり14時15分、ST1000クラスの決勝がスタートした。

予選11番手からスタートした作本選手はスタートをうまく決めて4番手まで一気に順位を上げる。その後、榎戸選手(SDG Mistresa RT HARC-PRO)にかわされて5位になるが、山口選手(Team T2y with NOBLESSE FAMILY)を加えた3台での4位争いを展開する。ベストラップを更新して6周目には4番手に再浮上、さらに前を追いかける。ペースアップした作本選手は3番手を走る岩戸選手(Vamos Racing with A-TECH)とのギャップを徐々に差を詰め始めるが、約0.7秒差まで縮めたところでチェッカーフラッグ、4位でレースを終えた。

●Comments

◆伊藤真一 監督

作本選手の追い上げにはいつも驚かされるのですが、スロースターターな部分は改善が必要です。しかし、はまった時の速さには大きな力を発揮してくれるので、彼の立ち上がりの上手さを引き出せるようにサポートしたいと思います。

◆作本輝介 選手

予選のタイヤの選択ミスから、決勝まで流れをきちんと作ることができずにスタートしてしまいました。グリッドが悪かったこともありますが、最初はなかなか前に出て行けず、苦戦しました。我慢の走りをしている間にトップが逃げて行くという状況でした。

タイヤが消耗し始めた後半にやっとリズムを掴むことができ、ペースアップして追い上げましたが、3番手の選手の後ろまで行きながら、抜くことができずに終わりました。

次戦では予選からしっかりと組み立て、優勝を目標にレースウィークにのぞみます。